

第 69 回青森県農政審議会 議事録

令和元年 8 月 1 日(木) 13:30~15:30
青森国際ホテル 3 階「孔雀の間」

1 会議成立報告

(司会)

(※委員総数 20 名のうち、本人出席が 15 名、代理の出席が 2 名で、会議が成立していることを報告)

- ・ それでは、開会に当たりまして、青山副知事から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

(青山副知事)

- ・ 皆さん、こんにちは。ただ今御紹介がありました青森県副知事の青山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・ 本日、三村知事、公務が重なり出席がかないませんでした。
- ・ 知事から、開会に当たりまして挨拶を預かって参りましたので、代読させていただきます。
- ・ 本日は、大変お忙しい中、第 69 回青森県農政審議会へ御出席を賜り、誠にありがとうございます。
- ・ 皆様には、日頃から本県農政の推進はもとより、県政全般にわたり、格別の御理解と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。
- ・ さて、本県農業につきましては、これまでの 15 年間にわたる「攻めの農林水産業」の取組により、農業産出額や農業所得の向上、農山漁村を支える地域経営体や新規就農者の増加など、その成果が着実に現れています。
- ・ 一方で、我が国を取り巻く社会経済環境は、人口減少や少子・高齢化の一層の進行、労働力不足、グローバル化のさらなる進展、地球温暖化に伴う気象災害リスクの増大など、大きく変化しております。
- ・ また、第四次産業革命がもたらす AI や IoT など先端技術の急速な進歩のほか、若者を中心とした「田園回帰」の動きや、外国人観光客の増加など、農山漁村への新たな人の流れも見られています。

- ・ こうした状況を踏まえ、本県では、昨年のこの審議会で御検討いただき、今年度から新たにスタートした第4期「攻めの農林水産業」推進基本方針におきまして、人口減少の進行に伴う労働力不足への対応を前面に打ち出しながら、「経済を回す」視点を重視し、国内外から認められ、選ばれる、付加価値の高い産品づくりや販売力の強化により、本県農林水産業の持続的成長を図っていくこととしております。
- ・ さらには、2025年以降の超高齢化時代を見据え、集落を支える多様な経営体を育成するとともに、労働力確保やコミュニティ機能の維持など、地域課題に取り組むソーシャルビジネスの創出等により、誰もが安心して暮らせる共助・共存の農山漁村づくりに一層、力を注いでいきたいと考えています。
- ・ 本日は、「攻めの農林水産業」のさらなる推進に向け、「人口減少社会を見据えた農業・農村の振興方向」について、産業政策である農林水産業の収益力の強化と、地域政策である農山漁村振興の両面から御審議いただくこととしております。
- ・ 委員の皆様には、それぞれの専門的な立場や経験から、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます、開会に当たりましての御挨拶といたします。
- ・ 令和元年8月1日、青森県知事 三村 申吾、代読。本日はよろしく御願いいたします。

3 出席者紹介

(司会)

- ・ ありがとうございました。
- ・ それでは、本審議会につきましては、今回、委員の改選がございましたので、会議の前に委員の皆様をご紹介させていただきます。
(※出席者名簿に基づき紹介)
- ・ なお、委員の皆様は7月21日から2年間となりますので、よろしく御願いいたします。
- ・ ここで、青山副知事は、次の公務がございますので、退席となります。
- ・ 続きまして、県側の出席者を御紹介いたします。
(※高谷部長、山田次長、船水次長・農商工連携推進監を紹介)

4 会長選任

(司会)

- ・ 次に、本審議会の会長の選任を行いたいと思います。
- ・ 会長は、県条例第4条第1項で「委員の互選により選任する」こととなっておりますが、皆様から御意見を頂戴したいと思います。御意見はございませんか。

(丸岡委員)

- ・ 弘前大学の佐々木先生にお願いしたらいかがでしょうか。
(※意義等はなく、佐々木委員が会長に選出)

(佐々木会長)

- ・ ただ今、選任いただきました佐々木です。
- ・ 微力ですが、青森県の農業のために貢献したいと思っております。
- ・ 皆さんの協力の下に迅速に審査を進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(司会)

- ・ ありがとうございます。
- ・ 次に会長職務代理者の選任を行いたいと思います。
- ・ 会長職務代理者は、県条例第4条第5項で「会長があらかじめ指定する委員」となっておりますので、佐々木会長に御指名をいただきたいと思
- ・ います。

(佐々木会長)

- ・ 会長職務代理者は、青森中央短期大学の清澤准教授にお願いしたいと思います。
- ・ (※指名に対し清澤委員も了承)
- ・ それでは、ここからの議事の進行につきましては、条例によりまして会長が議長として行うこととなっておりますので、佐々木会長よろしくお願
- ・ いたします。

5 報告事項1「第68回審議会の主な意見と対応について」

(佐々木会長)

- ・ それでは早速、議事に入りたいと思います。
- ・ まず始めは、報告事項「第68回青森県農政審議会の主な意見と対応について」事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(※資料1に基づき説明)

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 報告事項の説明がありましたが、何か御質問等がありましたら、お願いしたいと思います。
- ・ 特になければ、次の事項に移りたいと思います。よろしいでしょうか。

(各委員)

- ・ はい。
-

6 報告事項2「新たな「攻めの農林水産業」推進基本方針について」

(佐々木会長)

- ・ それでは、昨年度の審議会で「攻めの農林水産業」の推進基本方針の骨子案が審議され、今年2月に策定されたそうですので、事務局から報告をお願いします。

(事務局)

(※「攻めの農林水産業」推進基本方針（概要版）に基づき、施策の展開方向を説明)

(佐々木会長)

- ・ ただいま、説明がありました内容も踏まえて、審議事項に入りたいと思います。
-

7 試食品紹介

(佐々木会長)

- ・ 次の審議事項に入る前に、事務局から、試食品の紹介があります。

(事務局)

- ・ それでは、本日の試食品を御紹介いたします。
- ・ 本日、皆様に御試食いただく商品は、七戸町の有限会社三栄流通という会社が、本年5月から販売しております「とりこめチップス」という商品でございます。
- ・ この商品は、県産米を使用したつきたての餅を、砂糖、牛乳、卵などで味付けし、薄くスライスしまして、乾燥と冷凍を水分が抜けるまで繰り返し、最後に米油で揚げたものでございます。
- ・ 有限会社三栄流通は、今回初めてこうした商品開発に取り組んだそうで、商品化に当たりましては、県などが実施しておりますABC相談会でアドバイスを受け、また、町の6次産業化推進事業を活用しました。
- ・ さらには、レシピ開発では、県産業技術センターからの支援なども受けてございます。
- ・ もちの乾燥途中の割れや揚げた後の膨らみなどで大変苦労されと聞いております。
- ・ どうぞ御試食いただければと思います。

(佐々木会長)

- ・ 時間の都合もありますので、審議に入ります。

8 審議事項「人口減少社会を見据えた農業・農村の振興について」

(佐々木会長)

- ・ それでは、事務局から説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

(※資料2に基づき説明)

(佐々木会長)

- ・ 資料について説明がありました。人口減少社会という流れの中で、様々な分野からの対応が必要だと思っております。

- ・ 待ったなしの状況であることは、これまでの説明でおわかりいただけたかと思います。
- ・ 皆さん、同じ認識で議論が進められればと思っております。
- ・ 説明のあった事項だけを見ても、課題によっては、中長期的な視点での対策も必要であると感じました。
- ・ これから審議に入りますが、資料の1ページ目にあります課題ごとに、それぞれの経験や立場から発言をいただきたいと思っております。
- ・ なお、本日は委員の皆様全員に発言いただきたいと思っておりますので、御発言はできれば手短にお願いしたいと思っております。

9 審議（課題1）

（佐々木会長）

- ・ それでは、早速、課題の1、国内マーケットの縮小に伴う産地間競争が激化していくという課題について、審議したいと思います。
- ・ 先ほど、和牛のブランド化の話がありましたが、小山田委員に、畜産の分野で和牛は国内外で人気があるようですけども、県産の畜産のブランド化を進めるにはどのような取組が必要かということをお伺いしたいと思います。

（小山田委員）

- ・ 御指名をいただきました。
- ・ 和牛のブランド化は、この課題1にも当然関わることであり、また、今日の資料の5ページの国内マーケット、生産力の向上にも関わることであります。
- ・ 特に和牛のブランド化につきましては、これまでも取り組んでいます。
- ・ ブランド化では、かつての当県の種雄牛「東の第1花園」と言われたような牛が誕生するということは、本当の関係事業主、農家にとって、大変利益率が大きく励みになり、本当に経営上も大変助かります。
- ・ 5ページの、いわゆる和牛のオリンピックとも言われる大会が5年に一回開催されておりまして、3年後になります。
- ・ そういう大会に青森県も出品すると思っておりますが、前回の大会に行ってみまして、肥育、肉質の面でやはり他県よりも劣るなあという思いがいたしました。
- ・ と申しますのは、青森県の牛が悪いということではなく、選抜率を高め

ていく、より強く選抜して本当に良いもの、望めるものを出品する、そういうことによってまだまだ上位が見込めるものと思います。

- ・ しっかりと手順を踏んで、選んで選抜率を高める、そして、いざオリンピックに望むときは、その恩恵は全県下に及びますので、県内の市町村もちろん、団体も本当に一丸となって大会に臨めるような、そういうアクションプランの取組をしていただくように特に県にお願いしたいと思いません。
- ・ 当会も関係する団体でございますので、一緒にやるつもりです。よろしくをお願いします。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 委員の都合で、上明戸委員がこの後、所用があるということで、意見を最初に伺いたいと思います。よろしいでしょうか。
- ・ いろんなイベントに参加していると思いますので、情報発信の難しさとかいろいろ考えられている事があれば、あるいは、2番、3番がまだ審議しておりませんが、それについてでも構いません。

(上明戸委員)

- ・ 失礼いたします。先に失礼させていただかなければいけないので、ここで発言させていただきますが、何分まだ素人なので御了承ください。
- ・ 私は、野菜ソムリエという活動もしております、子供たちに対する野菜の学校というのも経験したことがあります。
- ・ ふるさとの十和田市役所さんからお声がけをいただきまして、子供たちと一緒に農業を学ぶということもしております。
- ・ そこで今日、気になったのが、青天農場というところで、労働力確保や人財育成についてです。
- ・ 10年後の労働力として今の子供たちをしっかりと導くというのはいかがかなと思いました。
- ・ 例えば、青天農場のジュニア版があってもいいのではないとか、子供のうちから農業の楽しさとか、おもしろみなどを感じてもらえるような取組ができれば、10年後、15年後期待ができるのではないかと感じました。
- ・ それから、牛の共進会にも行ったことがあります、本当に女王のような風格で、牛ってこんなに美しんだとか、牛も牛なりに自分でプライドを持って歩いているということを感じましたので、その姿を見たらきっと子供たちも感じるころがあるのではないかと感じております。

- ・ ジュニア版の青天農場とか、こういった共進会などに子供たちが見に行けるような、もっと農業に触れられるような機会を作れたら良いのではないかと思います。
- ・ 先日、とある農業高校に講師に行った時に、たまたま私が受け持ったクラスがそうなのかもしれませんが、30人のうち二十数人が農業に就かない、違う専門学校に行く、農業学校なのに美容師の学校に行くという子もいたりして、これはもう高校生ではなくて小学生のうちから導いていくべきと感じたところです。
- ・ つたないお話で申し訳ないですけども、失礼いたします。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 青天農場の取組み、今度始まるようですけども、高校生以下のもうちよっと若いところからという点は、いい提案ではないかと思っております。
- ・ 村上委員に伺いたいのですが、嶽きみとかかなり県内で認知度が高い、観光にも繋がるようなブランドを作っておられると思いますが、先ほどもありました6次産業化にも取り組まれているということで、どのような課題があるか、どのように考えられているか伺えればと思います。

(村上委員)

- ・ 嶽きみは今日くらいから生産者の方が動いていまして、直売所をやっているの生産者とコミュニケーションをとったところ、3日から入る予定となっております。
- ・ 4月から、「嶽きみ」「たけきみ」とか「何とかのきみ」とか、全国から問い合わせがあり、実際には8月中旬くらいって話していますが、皆さんどんどん前のめりになってきて、農家の方も8月上旬から出せるような体制をとってきております。
- ・ 私たちが会社を興して14年目になりますが、おかげさまで私たちも会社を興した時から嶽きみと関わり合って、嶽きみってこんなに皆さんから愛されているっていうのを日頃から本当に感じていて、それがブランドになってきたっていうことが一番の大きなメリットだと思います。
- ・ ただのとうもろこしではなくて、嶽きみは、ここでしか食べられないとか、メロンより甘いとか、朝穫りだったとか、とうもろこしに対していっぱい付いていく情報が消費者に伝わって、食べたらいいしかった、それがリピーターにつながっています。
- ・ 嶽きみだけではなく、それに付随した6次産業として、生で出せないも

のを新しい商品としていろいろ商品開発をしています。

- ・ 各業者も注目をされていて、嶽きみの粉がないとか色々な問い合わせがありますが、嶽地区でしか生産できないとうもろこしなので、皆さんが欲しい、欲しいと言ってもなかなか需要と供給が合わず、1つのものを奪い合いしているような形です。
- ・ 各業者も生産者の畑に直接行って買い取りするので、去年も県外に出荷され、地元のお店に並ばなくなったということも出ています。
- ・ でも、ブランドにすることによって農家の方には、後継者もいます。
- ・ 良いものを目指していくためには、ただ作るのではなく、ブランド化していくことが必要だと思います。
- ・ それによって若い後継者も、サラリーマンじゃなくて農業で勝負してみようという方も増えてくると思うので、そういう魅力ある農業にしていけたらと陰ながら応援しています。

(佐々木会長)

- ・ ありがとうございます。
- ・ 収益力の問題というのは後継者にも結びつくので、重要だと思っております。
- ・ 吉田委員には、にんにくの土づくりにも熱心に取り組まれていると伺っておりますが、環境保全型農業や土づくりは、どの品目にも共通するものなのか、あるいは、難しさとか、苦勞している点とかあれば、教えてもらえればと思っております。

(吉田委員)

- ・ 今、土づくりで取り組んでいることは、有機栽培をベースにして、堆肥を使い化学肥料は使わないように、そして、農薬の使用は少なくすること、一般的に言われているようなことに取り組んで2年目です。
- ・ 去年、教えていただける先輩の農家さんと知り合うことができました、その方は、ながいもを栽培されている方ですが、質、量ともに通常の栽培よりも良い結果を出されていました。
- ・ 私はにんにくなのですが、にんにくの無農薬・無化学肥料ってなかなか難しいと思っていましたが、ながいもの先輩の取組を見ていると、もしかしたらできるのではないかという思いで、取り組んでいます。
- ・ 今年7月上旬に収穫し、試験的に行った有機栽培のところでは、びっくりしたのですが、普通の栽培のものよりも質、量ともに上回っていたという結果が出ました。

- ・ きっとどの作物にも、共通するものではないか思い、まず私が自分の畑で結果を出して、それから広めていければ良いと思っています。
- ・ 私は農家ではなく、新規で取り組んだので、教えてもらうような環境がなく、普及所の方とか、先輩の農家の方とかから徐々に徐々に教えてもらいつつ16年目になりました。
- ・ これまで、普通栽培では、結果が悪いからそれに対して事後に対応するということを感じていましたが、元を正せば何かというふうに自分なりに考えていったところ、やっぱり最終的には土だとか水だとか、環境だとかそういうところに行き着きました。
- ・ にんにくで成功している方の事例がなかったので、自分でやってみることに躊躇していましたが、ながいもの先輩を見て「よしやってみよう」と始めた結果が良好だったので、これから無農薬・無化学肥料栽培に、耕作面積は少ないのですが、徐々にシフトしていきたいと思っています。
- ・ 自分たちで堆肥作り、化成ではなくボカシの肥料、これは有機物を発酵して栄養分を補給してあげるという土のバランスにも良いもので、こういった健康な土から健康なにんにくができます。
- ・ 栄養成分がないと食べ物って意味が無いと思うのです。
- ・ 私も野菜ソムリエで、野菜の栄養成分が少なくなっているというのも、栽培方法だとかに問題があるのではないかと考えていたので、まず私の作るにんにくの栄養価が数値的にも高い、食味がある、あとは土も健康という結果を導き出せるように頑張っていきたいなあとと思っています。以上です。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 最初にやる方々、皆さん苦労してある程度成果を出されていると思うので、これから頑張っで欲しいなあと考えております。
- ・ 成分に関しては、研究機関や大学でも分析をやっておりますので、できれば協力したいと思っています。
- ・ 次にりんごのことについて、丸岡委員にりんごの大規模栽培をされていると伺っていましたが、りんごの品質等でここを心がけている、あるいは工夫されている点があればお願いしたいと思います。

(丸岡委員)

- ・ 丸岡です。
- ・ りんごの大規模栽培は、例えば3町歩、4町歩になると、かなり少ない

と思います。

- ・ 県の平均がだいたい1町歩なので、その3倍、4倍の面積をこなすというのは、作業員はもちろん必要だろうし、家族の中では家族が休みを取れないなどの弊害も出てきます。
- ・ ただ、昔から受け継いだ土地をただ守り抜くだけではなく、思い切って良好な品種を集中させて収益を上げる方法とか、手間をかけずに品質を上げる方法とか、摘果については、開花の時期に農薬で自然に花を落とす技術とか、実の段階で落とす摘果剤とか、全てを駆使してできるだけ手間をかけない方法でやっていかないと、収益が上がるどころか、収益がなかなか残らないと思うのです。
- ・ 畑作とか稲作になると、ロボットトラクタとかそういう機械化が十分通用するものがあると思いますが、りんごについては、手作業の部分が多く、外観、見映えを良くする葉摘みとかが必要です。
- ・ 見栄えももちろんそうですが、味で勝負するもの、見映えを良くする袋かけをするとか、長期販売に向けるとか、自分たちの畑の中でどうやって手間をかけるか、どうやったら手間をかけないかという選別をしてやっていかないと、これから人口減少で、作る人も大変ですが、食べる人もいなくなると思うのです。
- ・ ブランド化と言いますが、やはり選ばれるりんご産地になるためには、総合的に向かっていかなければ、産地として生き残っていけないのではないかと思います。以上です。

(佐々木会長)

- ・ はい、ありがとうございました。
- ・ 省力化の問題については、課題の2のところ、りんご協会の藤田委員からも後から聞きたいとは思っていますが、第1の課題についてはここまでにして、第2の課題の労働力不足により産地の維持・拡大が難しくなっていくという課題について、話をしたいと思います。

9 審議（課題2）

(佐々木会長)

- ・ 資料6ページからになります。
- ・ 最初は、今話題に出ましたので、りんご協会の藤田委員から、りんごの省力化とか機械化が難しいと今言われましたけども、どういうふうにして

そこら辺を解決していくか、改善していくか、望まれるような改善する作業が何かあるか教えてもらえればと思います。

(藤田委員)

- ・ 省力技術というのは、丸岡さんのようにわかっている人がどんどんやっていると思うので、そういうのはお任せして、私からは、りんご協会の取組についての話があります。
- ・ 資料の7ページにある共助・共存の農山漁村づくりにかなり近い発想なのですが、協会の支会が県内各地域に270ぐらいあり、集落のりんごづくりの中核になっています。
- ・ 危惧を感じているのは、支部の役員交代が早すぎて、どんどん役員が若返りし、地域の課題だとかをゆっくり話していない。
- ・ 来年の新規事業になると思いますが、ただ単に支会組織が動いていれば良いというのではなく、支会、地域の活性化のため、その地域のりんご園の地図を、名前、後継者があるのか無いのか、年齢がどれ位といういろいろなデータを入れながら作成し、支会、地域がこれから5年先、10年先どうなるのかという構想を支会ごとに作ってもらおうということを考えていました。
- ・ 団塊の世代がリタイアすると、おそらく青森県のりんごもかなり減ります。
- ・ 高齢の人にもなんとか頑張ってもらいたいなと思っていました。以上です。

(佐々木会長)

- ・ そうですね。最近の高齢の方はかなり元気なので、思いのほか長くやれるのではないかと思ったりしています。
- ・ 若返ったら若返ったで、情報の共有はなかなか難しいものがあるのではないかということは、課題の一つだと思っております。
- ・ 労働力については、鎌田委員に伺いたいのですが、気軽にアルバイトしてくれるような環境を整えて、子育てが一段落した主婦の方とか、大学生がやってみようと興味を持っていただけるようにしたいなと思っているのですが、どのような点があったら気軽に労働力不足の時に協力してもらえるかということについて、もし考えていることがあれば教えてもらいたいと思います。

(鎌田委員)

- ・ 難しい課題をいただきました。
- ・ 実は去年、県から、農家の人手不足に補助労働力として、アルバイトや農業体験をしてみたいというのでもいいので、やってみたいという方いませんかと、組合員に声をかけて欲しいという依頼がありました。
- ・ ニュースを作って組合員さんに呼びかけをし、最寄りのJAさんに連絡を入れるという形で呼びかけてみたのですが、参加がどれだけあったかというのは確認ができていませんが、去年は呼びかけて終わったというところではあります。
- ・ 今回はJAさんからお話があって、とりあえず職員のところで農業ボランティアとして、まず自分たちが体験してみることにより、組合員さんにお話をもっとできるという形を作れば、農家の大変さと同時に、収穫の喜びだとかそういうことも味わうことで、またやってみたいというように、もっと掘り起こしていけるのではないかとということで、秋に募集をするという話が出ておりました。
- ・ これまで聞いていて、生産者の皆さん方も大変な思い、また、守り続けた田畑や畑なんかを手放さざるを得ないような状況が来ている中で、生産者と消費者がもっと近い距離で産業を応援し合うってというような取組みとか仕組みが必要なのではないかと思うのです。
- ・ 前は、田子のお米と一緒に育てましょうという事業があり、生協ですつとやってきたのですが、受入れ側も大変になってしまい、そのプロジェクトが終わってしまいました。
- ・ このようなことがあるので、第三者が入りながら、そこをサポートしていくような形がなければ、生産者の側に負担になるだけになり、継続できなくなります。
- ・ そこまでの足を踏み込んだプロジェクトを作っていくって事が大事なかと、改めて今日のお話を聞きながら思い、持ち帰って、生協としても相談できたらと思いました。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 今、話がJAに移ったので、まずは部長に労働力確保に期待しているのかどうか、あるいは、今後どのような方向に考えているのか、ということをお話していただきたい。

(J A青森中央会 松澤部長)

- ・ 労働力確保は、産地を守っていく、地域農業を守っていくためには、ぜひとも取り組んでいかなければならない、労働力不足をできる限り改善、解消していかなければならないという課題ですが、この対策をやれば何でも解決できますよという特効薬は、皆さん御存じのとおりありません。
- ・ 考えられる方策を一つ一つやっていくしかないということで、まず昨年度から取り組んでいるのが、援農ボランティアの制度、あまり農家の手助けまでは至っていないとは思いますが、地元企業さんの社員の方から協力を得まして、援農ボランティアに去年から取り組んでおります。
- ・ 昨年度240名くらいの社員の皆さんから御協力をいただきました。
- ・ 今年度、先ほど鎌田常務からもお話がありましたけれども、生協さんだとか協同組合同士で組織を作っていますので、漁連さんだとか森連だとかにお声がけしまして、援農、農作業のお手伝いをお願いしていくことにしています。
- ・ 7月からやっておりまして11月まで、計14回ほど実施することになっています。
- ・ 併せまして、県内の9 J Aでは、無料職業紹介所開設しております。
- ・ 資料にもありましたが、県の求人サイトとも連携をしながらやっており、農協の段階でいかにして求職者を多く集められるかが重要です。
- ・ そのために、今年度中に取り組もうと考えているのが、准組合員、それから地域の方々、消費者の方々、主婦の方、年金友の会の会員が非常に多いので、こういった方々を農業の味方になっていただこうと、農業応援団という形で登録していただいて、空いている時間に農業のお手伝いをしていただくことに、これから取り組んでいきたいと思っております。
- ・ 補完的な労働力とともに、農業の理解にも繋がっていくという取組で今後やってきたいと思っております。
- ・ それから、どうしてもJ Aの段階で求人、求職マッチングをやってもマッチングできなかった人がいます。
- ・ 求職者は貴重な資源ですので、A農協でマッチングできなかった求職者をB農協に紹介していく、そういった県域としての仕組みづくりを今年度中に考えていきたいと思っております。
- ・ まだこれからの取組です。思いつく限りの取組に今年度、力を入れます。以上です。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。

- ・ 農業関係のサポーターづくりということは極めて重要だと思います。
- ・ 遊休農地も結構出ていると思いますが、農業委員会の山本委員に、農地中間管理機構の仕組みも利用しながら、農地集積あるいは、一歩進んで遊休農地の解消というのとも考えなくてはならないと思っています。
- ・ なかなか難しいとは思いますが、考えていることをお話しいただきたい。

(山本委員)

- ・ 大変難しいことですが、先般の新聞報道で全国の農業経営体数120万経営体と報道されていました。
- ・ この10年間で49万経営体がなくなりましたが、農家数が減少しても農地はあまり少なくなっていない。
- ・ ますます大規模化が進む、そしてスマート農業にも進むのですが、必ずしも、離農した方々の農地を大規模農家の方々が受け切れていないという現状もあります。
- ・ 農水省でも、大規模化していくのもいいのかもしれませんが、ここは一つ原点に戻ってみて、集落を守る、地域の自然を守る、そういう観点からも、小規模経営体が生活していけるように目を向けてはどうかということも言われています。
- ・ 確かに、中山間地域に行けば、ますます経費もかかるということで、様々な補助事業もありますけれども、なかなか中山間を維持していくのが大変だということで、これは大変難しい問題だとは思いますが。
- ・ 中間管理機構では、23年度までに集積を8割にするという目標を掲げていますが、5年で中間管理機構がまとめたのは、実際は7.5パーセントか8パーセントしかないわけです。
- ・ そういうことから、8割までもっていくのは大変かなと思います。
- ・ そういうことから小規模農家にも目を当てて、そういう方向に向かっていくのが私は一番いいのではないかと思います。

(佐々木会長)

- ・ 大規模化ということを考えると、山内委員はかなりの面積の農地を管理されており、先進技術を活用しているのではないかと思います。何かお考えがあれば聞かせてもらいたいと思います。

(山内委員)

- ・ まず、お聞きしたいことがありまして、4ページの7・8・9作戦の整

粒歩合80パーセントということは全量1等米です。100パーセント1等米ということで、ちょっと違うのではないかと思います。

- ・ 整粒歩合は70パーセント以上で1等米なので、7・8・10になるのではないかということをおきます。
- ・ まず、藤田委員の意見に大賛成でして、マップづくりは、非常にわかりやすいと思います。
- ・ ここに後継者がいる、何歳、リタイア者、誰々というマップは、小さなところから、大きな町村単位、それから県単位まで、絶対に必要であると思っております。
- ・ 私は、農協の経営に携わっており、常日頃から、農協の果たす役割は、この冊子の中に全てあるのではないかと考えている一人です。
- ・ 労働力不足や経営体のあり方、それから後継者のあり方など、少しずつでも農協が出来ることのあるのではないかと思います。
- ・ 県経営士会の役員をしていると、毎回の会議や総会、全国大会で出てくるのが、後継者不足の事です。全国、同じ問題を抱えています。
- ・ 答えは無いと思うので、少しでも改善できるような方策を皆さんの意見から拾い上げていくのが大切だなと思います。
- ・ 経営士会は男性ばかりですが、女性の意見がすごく新鮮でして、もう少しVIC・ウーマンの会議にも出なくてはいけないかなと考えています。
- ・ 農協のあり方というのを、常日頃から若い人たち、従業員にも言っています。50年後のあり方を考えて10年後の夢を語れ、そうすれば5年先の道も見えてくると言っています。
- ・ 私たちは若い頃、大規模経営を、ある先輩方の夢や後ろ姿を追いかけて頑張ってきたのですが、山本委員が言うように小規模のこともこれからは全て網羅して考えていかないと、成り立っていかないのではないかと思います。それも、農協が全て出来るのではないかと考えています。
- ・ なぜかというと、地域の農家のことは、ほぼ農協が知っていると思っています。つがるに起きた農協では、全て網羅していると思っています。
- ・ 昨日の理事会でも後継者のことが出まして、役員の在り方についても考えなくてはならないなと思いました。職員の資質を高めることも大事ですが、農家の資質も高めていかなければならないと思います。県、市町村、農協、消費者、農家全てが、同じ土俵に立つのは難しいと思うので、それぞれの団体が上に押し上げて、リーダーである県がしっかりしてもらわなくてはならないと思います。
- ・ 大規模と言っても、私は今、たかが30町歩位で、これからはメガ農家が出てきます。

- ・ 300町歩、400町歩というのが出てくるので、そういう農家さんをいかにして守っていくかということは、我々の世代の責任であると考えていますが、全然答えが出てこないです。

(佐々木会長)

- ・ はい、小山田委員が発言したいということで、お願いします。

(小山田委員)

- ・ ボランティアについてです。
- ・ 当市では、大学生30名位、ほとんどが女性の学生が「楽農（らくのう）」、楽しい農業応援隊というクラブ活動に取り組んでおり、市が市民活動支援事業ということで支援しています。
- ・ その学生が、市内の若手農業者と毎年、年に2回くらいの話し合いをしたり、手伝ったりしています。
- ・ 労働力不足となれば、今日の資料7ページにもありますが、これからはやはり、スマート農業になろうかと思えます。
- ・ 現在は、プロジェクトの取組に国もいろいろ支援していますが、個別の農家の支援も、これから行政として検討していただきたい。
- ・ 当市の販売農家は2,200から2,300戸くらいありますが、1,000万以上の販売農家となれば、そのうち4パーセントくらいになります。
- ・ 認定農業者の最低基準である400万円位の販売農家の方でも、機械がなければなかなか進まない。
- ・ そういうために国の事業がありますが、手を上げたとしても、大規模経営者、株式会社、新規就農者などの方が優先的に採択されるため、結果として申請できない状況です。
- ・ 300から400万円くらいの所得の農家でも、何らかの行政支援が出来るような仕組みづくりを是非お願いしたいと思っています。
- ・ 実際は、そういう方のほうが多いのです。以上です。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 地域づくりの課題に移りたいと思います。

10 審議（課題3）

（佐々木会長）

- ・ 地域で生活していくためには、いろいろな取組や工夫が必要だと思います。
- ・ 特に女性の活躍というのが、重要だと思いますので、VIC・ウーマンの金淵委員に、女性の活躍できるような環境づくりというのをどのようにお考えかということをお願いしたいと思います。

（金淵委員）

- ・ 私と主人が後継者ですが、普通の農業を私が継ぎたくなかったことや、子供に農業を継がせたいとのことから、化学肥料、農薬、除草剤等は無使用の畑に転用し、15、16年になります。
- ・ 私が所有する田畑を全てこのやり方でやっていきたいというのが私の夢ですが、それだけでは食べていけないので、量よりも質で攻めてきたいなということを構想しています。
- ・ 6次産業化にも取り組み、生活改善グループからVIC・ウーマンに認定されました。VIC・ウーマンの方たちと後継者の話になりますが、結局、給料を払えなければ子供は定住しません。
- ・ 私も嫁いで来た時、働かなくていいと言われました。若い人は農業をしなくてもいいと言われましたが、子育てが終わって欲が出ると自然と働きます。
- ・ 今、私たちの年代、50代、60代、70代は必死に働きます。その姿を見せながら、環境に良い農地を残す事を目的にするべきです。
- ・ せっかく「攻めの農林水産業」で、土・水・人づくりの取組が重要とされていますが、農協さんでの薬剤等の販売量が全然私たちに見えてきません。
- ・ 例えば、私たち地域で、年2回くらい公民館の環境整備をすると、普通にスクールバスが出入りするところに除草剤を散布しています。
- ・ これで、果たして子供たちが将来を担っていけるのかと、私は不思議でなりません。
- ・ 県をあげて、環境づくりとして、不必要な除草剤等の使用を規制するなどをしてほしいと思います。
- ・ 子供を農業に引っ張っていくためには、そのようなことも一緒にやっていけたらと思っています。
- ・ 環境に優しい農業を目指す青森県、全国に胸を張って、青森県の野菜は減農薬で全国一になってほしいというのが、私の今一番の夢です。

- ・ よろしくお願ひします。

(佐々木会長)

- ・ はい、先ほどの有機農業の話もありましたが、環境づくりは大切だと思います。
- ・ 地域づくりに関係して、また旅くらの高木委員に伺いたひのですが、グリーンツーリズムや農泊、交流人口の拡大が注目されていると思ひますけれども、地域の活性化につなげていくためには、受入れ側にどのような工夫が必要かということなどを教えてもらえればと思ひます。いかがでしょう。

(高木委員)

- ・ はい、私は旅行会社をやっております。
- ・ 普通の旅行会社は、外にお客さんを連れて行くというのが多いパターンですが、私は青森県にお客さんをお呼んでくるってことを徹底してやっけていこうと思ひています。
- ・ そのためには、青森ならではの、ここに来ないとないというものを提供したい。
- ・ 農業者や漁師さんたちとのつながりがものすごくあり、いろいろな地域の課題は人口減少です。
- ・ 若い人たちが外に働きに出ないといけない、それで地元の人たちは活気がなくなると聞きます。
- ・ どうしたらいいのかと考へ、自分たちのできることをやってみようというのが、外からお客さんをお呼んでくるためのツアーのきっかけで、そこから始まって10年たちました。
- ・ 今は、五所川原グリーンツーリズム協議会という18団体しか入っていない小さな協議会の協議会の事務局をさせてもらっています。
- ・ 五所川原の人たち中心に会を作ったのですが、今は、つがる市や鱒ヶ沢などに広がっています。
- ・ 五所川原だけではなくて、西北地域や青森県一帯のみんなと一緒に青森県を盛り上げていこうと、今自分たちが出来ることに取り組んでいます。
- ・ 何百人、何千人というのはちょっと難しいのですが、少なくとも自分のお客さんを皆さん持っています。
- ・ きちんとファンがいるので、そのファンをきちんと横につないでいくと、滞在時間とか日数とか延びて、活気が地域に出てくるのではないかとと思ひます。

- ・ 本当に私もたくさん呼んできたいのですが、なかなか今すぐにはそこまでいきません。
- ・ ただ、大規模経営体、小規模経営体という考え方と同じように、自分のブランド、自分の良さやファンを大事にして、そして、この地域を好きになってもらって、隣に丁寧につないでいくという形で私の出来ることを進めて行きたいと思っています。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 段階を経て広がるということだろうと思います。

(高木委員)

- ・ あともう一つ、私は旅行会社をやりながら、協議会の事務局をやっています。
- ・ 地域のコーディネーターという役割があると思っています。これは、すごく手間がかかります。
- ・ しかし、この部分を稼いでいかないと、今度、バトンタッチする人がいないということが、今、自分に起こっている大きな課題です。以上です。

(佐々木会長)

- ・ 組織を維持するというのは大変な仕事だと思いますので、今後、何かいい案があったらと思います。
- ・ 今のグリーンツーリズムにも関係しますが、食べ物について、食育、健康づくりということも重要だと思うので、栄養士会の大谷委員に農林水産業と食育、あるいはグリーンツーリズムでも構いませんが、効果的に高めていくいい案があれば、伺えればと思します。

(大谷委員)

- ・ 今、皆さんの現場の声をお聞きして、やはり青森の魅力は自然と食べ物がおいしい、人柄がいいというのは良く聞きますが、現場の皆さんがこんなに頑張っていますので、情報発信はすごく大事なことだなあと感じました。
- ・ 3ページのところに6次産業化の推進についてありましたが、消費者はやはり安全・安心がまずは第一だと思うのです。
- ・ それに加えて、今、特に女性の間で、健康志向が非常に取り沙汰されているような状況があると思いますので、情報発信も兼ねて、商品を開発す

る時に、栄養的な情報も少し取り入れていただいで、パッケージとかに工夫をされたらいいのではと感じました。

- ・ それから、食育のことにに関してですが、資料を拝見すると、とても面白い内容で、若い女性が近頃、青森県のほうに帰ってきている、Uターンしているという情報を色々なところで聞くようになりました。
- ・ その元をたどると、子供の頃の青森での豊かな体験であり、都会に出て初めて青森の良さがわかったということをよく言われていますよね。
- ・ 上明戸さんも言われていましたが、子供の時から体験するというのがとても大事なことなのだと思います。
- ・ その中で、料理教室や収穫作業など、1回だけで終わるようなイベントだけではなく、継続して農林水産業に携わっている人たちとも触れあえるような場を作っていくようなことも必要なことではないかと思いました。
- ・ 現場の皆さんと、それから消費者、この2つを様々な意味でコーディネートすることがとても大事で、県にこれからも頑張っていただきたいと思います。以上です。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 今、食の問題について、清澤委員にも、個食とか栄養バランス、共食、食育などにおいて、どんなことが求められているのかというのをお話していただければと思います。

(清澤委員)

- ・ はい、清澤でございます。
- ・ 先ほど、大谷先生が言われたように、本学でも食育で青森県を元気にしようということで、イベントだけではなく、継続した食育活動について、地域で様々な問題を解決するための食育活動を実践されている方たちが、継続して自立して活動していけるようなサポートを行っていききたいと思っています。
- ・ みんなの食堂や様々なイベントをモデルの事業として、県のサポートで実施したものを、地域で実践した人たちが継続して続けていけるような体制づくりなどの仕組みも是非一緒に考えて、お願いしていききたいと思えますし、我々も出来るところで協力していききたいと思っております。
- ・ 資料にはありませんが、青森県では、食育の中で今年、農業・漁業の女性に対する健康づくりのようなことに取り組まれていると伺いました。
- ・ 農協の女性に対する健康づくりをされている。農林水産部は、農業者、

漁業者など生産者の生活習慣や食の習慣といったことをご存じだと思おうので、健康づくりは農林水産部以外の予算なのかもしれませんが、連携をしながら農村づくりと一緒に健康づくりも進めてもらえたらいいなあと思っております。

- ・ もう1点、有機農法や無農薬について、女性は本当に気になりますし、子供の健康みないたものも十分関心が高いところだと思いますが、例えばりんごでは、高品質化に向けて適正に薬剤を使用しているなどを情報発信してもらいたいと思います。
- ・ そういったことがもちろん大変大事なことですし、ものによっては無農薬が付加価値を高めていくっていう戦略もあるのですが、農薬の使用の利点や、安全に適切に使用することの大切さ、そういったものを是非、県でも消費者に発信してもらいたいなと思っております。
- ・ 資料の4ページに、新規で黒星病の農薬登録というものも行われるそうですが、ここ数年、黒星病対策で薬剤の適切な散布がすごく有効であるというのが一般の市民にも伝わるようになってきています。
- ・ 消費者は、やはり農薬はちょっと不安だというイメージがやっぱり強いので、安全な使用ってというのが利益に繋がるというところを是非発信していただければいいと思っております。以上です。

(佐々木会長)

- ・ 油川専務理事から環境のこととか安全性の問題を、町村会の浜谷委員から、集落の問題等色々あるだろうと思うので、それを言っていただきたいと思っております。
- ・ よろしくお願ひします。

(青森県土地改良事業団体連合会 油川専務理事)

- ・ 環境問題で我々が関与しているもので、県の施策でもあります環境公共というような取組があります。
- ・ これは、山から里、海までのつながった流れの中で、地域の環境を健康な状態で保っていきたいという取組です。
- ・ 農政審議会の対象ではありませんが、当然のことながら山で木を植えて、里で農業が営まれ、その結果、海に注ぐ水が健康な状態で魚を育ていくというのは、青森県の優れた特徴の1つだと思いますので、これを維持していかなければなりません。
- ・ 農業の役割では、農薬の問題だとか、子供たちに、将来にわたって負荷を与えるようなことはしないということは、これまでもやってきました

し、そういった声を大きくしていくというのは非常に大事なことだと思っています。

- ・ りんごの農薬というのは、昔みたいに人的に被害を与えるというものが基本的に今はないので、りんごは農薬散布や健康上などについて、やっぱり意識を改めていくように我々も努力しなくてはいけないなあと考えています。
- ・ 皆さんご存じない方もいらっしゃると思いますが、多面的機能支払という制度を活用し、農業がその地域に、そして環境にどのように良い影響を与えているのかという視点から、その環境を保全していくためには農業者だけではなく、地域に住む人たちが一緒になって、例えば草刈りだとかゴミの清掃だとか町内の美化活動をしなくてはいけないという取組も今行っています。
- ・ 私どもも知らない活動が様々あり、それぞれの分野で既にやられているということ、全体像として明らかにしながら、どこの部分が弱いのか、どこの部分を強めていく必要があるのかということ、県がリーダーシップを発揮し、バランス良く地域の環境を守っていく、それから健康づくりをしていくという取組をより一層進めていただきたいと思っています。以上です。

(佐々木会長)

- ・ はい、ありがとうございます。
- ・ 最後に、地域づくりに一番関わっている町村会の浜谷会長さんから、集落の維持や抱える課題などお話しいただければと思っています。

(浜谷委員)

- ・ はい、本当に皆さん、それぞれの立場でこだわりを持って頑張っているということは、非常に大事なことだと思っています。
- ・ 大なり小なり個別で頑張っている人達には、是非、どこまでも頑張ってもらいたいなあという気もします。
- ・ 後継者問題、そして子供の時から営農というか農業に対しての学習、そして食育の問題等々、全て関連しています。
- ・ 行政として、こういった皆さんをどうやって地域の活性化に結びつけていくかということになれば、やはりそれぞれの産地がブランド化に向かい、また、個別で有機農法、エコファーマーなどでも頑張っていますので、そういう分野をしっかりと、特色を持った農業をやって欲しいなと思っています。

- ・ 一人二人ではなかなか頑張れるものではありませんが、集落営農では、それぞれのやりたい人、本当に意欲を持ってやっていきたいという人で、おそらく表に出ない人がいるかもしれません。
- ・ 私の町でも、有機農法で頑張っていますが、ちょっとやり方がわからないという人もいます。
- ・ やはり、仲間作り、橋渡しをするという意味では、それぞれの農業者の皆さんの情報を集めて、そしてまた皆さんの仲間作りの連携をしていけるようにというようなことをしていかなければならないと思っています。
- ・ それから、役所は事務的な仕事をしていますが、農家の人たちから技術面や経営面について問い合わせが非常に多くなってきています。
- ・ JAも統廃合が進んできましたが、営農指導が大事で、行政と連携し、技術指導面や経営面で常日頃からの連絡会を開催しないと農業離れが進んでいくと思っており、大変危惧しています。
- ・ そういう面で、市の役割は非常に大きいと思っておりますが、県でも色々な関係機関と連携して話し合い、青森県の農業の魅力をPRしていくように、強力に取り組んで欲しいということをお願いします。以上です。

(佐々木会長)

- ・ はい、どうもありがとうございました。
- ・ 新規就農者の256人はかなり多いのですが、こういう人方に対して浜谷委員がおっしゃられた指導をどういうふうにされているのかと思いますが、そういう指導が良かったのでこんなに数が集まっているのではないかと考えています
- ・ 色々課題はありますが、新規就農者が集まっているということで成功しているというふうなニュアンスでまとめさせてもらい、これで終了したいと思います。
- ・ 委員の皆様には円滑な進行に御協力いただきましてありがとうございました。
- ・ また、本日の意見を県の施策に生かして欲しいと思っています。
- ・ それでは司会を事務局にお返ししたいと思います。

11 閉会

(司会)

- ・ はい、佐々木会長ありがとうございました。
- ・ それでは、閉会に当たりまして高谷農林水産部長から挨拶を申し上げます。

(高谷部長)

- ・ 長時間にわたりましてそれぞれの分野から、御意見、御提言をいただきました。誠にありがとうございます。
- ・ 今感じたのは、まだまだ県として情報提供が足りていないのかなというようなことをまず思いました。
- ・ また、まだまだやるべき事がたくさんあるということも感じました。
- ・ 今年度から第4期「攻めの農林水産業」をスタートし、4か月、3分の1が経過しました。
- ・ また、既に来年度の事業、予算に向けて検討を開始している、そういった段階に入っています。
- ・ 本日、皆様方からいただきました御意見等を、これから来年度の事業、施策に反映させていきたいので、これから色々検討させていただきたいと考えています。
- ・ 今日、非常に限られた時間であるということで、委員の中ではもっと言いたいことがたくさんあったのではないかと考えています。
- ・ 後ほどでも結構です。事務局に電話、あるいはメール、ファックスでも結構ですので、御提言いただければと思います。
- ・ 最後に、委員の皆様方におかれましては、今後ともそれぞれの立場から、県行政全般に対する御指導、御協力をいただきますようお願い申し上げます。閉会のあいさつとさせていただきます。
- ・ 本日は誠にありがとうございました。

(司会)

- ・ 以上をもちまして第69回青森県農政審議会を閉会いたします。
- ・ 本日は誠にありがとうございました。